

古文 練習問題 ⑤ 『古今著聞集』

次の『古今著聞集』の一節を読んで、あとの問いに答えなさい。

伊予の入道は、幼くより絵をよくかきはべりけり。幼少のとき、父の家の中門の廊の壁に、かはらけのわれにて、不動の立ちたまへるを (a) かきたりけるを、客人、これを見て、たがかきて候ふにか、と、おどろきたる気色にて (b) 問ひければ、あるじうち笑ひて、これはまことしきもののかきたるには候はず。愚息の小童がかきて候ふ、と (c) 言はれければ、いよいたづねて、しかるべき天骨とはこれを申し候ふぞ。このこと制したまふことあるまじく候ふ、と、なん言ひける。げにも (d) よく絵見知りたる人なるべし。

*伊予の入道 絵師、藤原隆親のこと。*かはらけのわれ 土器の破片。*不動 不動明王 *候ふ 「そうろう」と読む「いる」「ある」などの丁寧語。*たが だが。*まことしきもの 本格的な絵師。*しかるべき

天骨 天が与えたすぐれた才能。

一、 (a) 〃 (c) の主語にあたる人物を、それぞれ書きなさい。

(a) () (b) ()

(c) ()

二、 (d) 「よく絵見知りたる人」とはだれのことか。文章中から書き抜きな

さい。

()

答え

- 一、(a) 伊予の入道
- (b) 客人
- (c) あるじ

二、客人

解説

古典の暦 こよみ

冬	秋	夏	春	睦月
十月	七月	四月	一月	うづき
神無月	文月 <small>ふづき</small>	卯月	睦月	むつき
十一月	八月	五月	二月	如月 <small>にげつき</small>
霜月	葉月 <small>はづき</small>	皐月	如月	さつき
十二月	九月	六月	三月	弥生 <small>やよい</small>
師走	長月 <small>ながつき</small>	水無月	弥生	みなづき